

1991年/2月号

1991年12月5日発行(毎月1回5日発行)

№174

あんふぁんて

発行人/ 発行所/あんふぁんて出版部
定価/500円 振替口座/ あんふぁんての会 電話/

夫へ

あなたと出会って もう八年

山あり 谷あり 峠あり

いろんなことが ありました

「男は女を守るもの」なんて

わたしの勝手な思い込み

あなたはいつでも ありのまま

きなりのあなたに誘われて

私のきなりもみえてきた

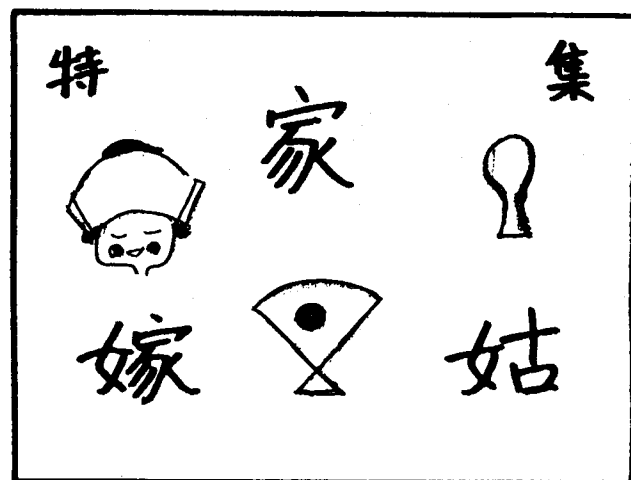
ひとりでも たぶん生きていけるけど

ずっといっしょに歩いていきたい

ありのままの強さ わけてもらいながら

詩・イラスト 程本





お昼のワイドショーやホームドラマでとかく興味本位にとりあげられる「嫁・姑」の問題。しかし、今を生きている「嫁」の声は、案外世間に届いていないのではないだろうか？

「両性の合意のみ」にもとづくはずの結婚にともなう生じてくる不可解な人間関係とその背景にある有形・無形の制度、「家」の問題——それらについて、あんふぁんての人たちは何を感じ、どう向きあおうとしているのでしょうか？

寄せられた五十七通のアンケートの回答を中心にまとめてみました。徹底的に「嫁」の立場から。

るほどね」しか話さないようにするしかない」と最近悟りました。

- ・表面上はうまくいっているつもり。余計なことはしゃべらずに見えぬふりをしている。
- ・あてにもしないし期待もしない。
- ・もつとお互いに近づこうとか理解しようとかしなくてはと思う。
- ・謙虚につきあおうと努めてはいるつもりだけれど失敗の連続。まっさきにやいやい。
- ・「あんたたちと私は他人だ」「娘のジジババなんてほんとのところ名乗ってほしくない」これが正直な気持ち。
- ・夫を親と取り合えるつもりはありません。できれば、のしをつけて返してあげたい。
- ・予想もしなかった夫の親との関係。安易に結婚したことを反省している。
- ・七年間音信がないので、お互い生死不明。
- ・意識的に、つきあわない。

★あなたの親・兄弟と夫（彼）との関係は？

- ・うまくいっているもいっていないも顔を合わすのは一年に一度。彼の親とのつきあい方について「むずかしく考えないで自分の親だと思えば？」と言った彼のことはをそっくりそのまま返してやりたい。
- ・うまくいっている。私が気を使っているモン。私しか、夫と自分の親兄弟をつなぐ人はいないんだから。（夫もこれくらい気を使っているんだから。）
- ・両親は夫をとて大事にしています。
- ・うまくいっている。彼が、私の両親や妹に對し、私以上に気を使っているから。
- ・どうも、娘の親は娘のつれあいを尊重し大事にする、息子の親は息子のつれあいをウチ

へ「義理の親子」が

つきあえば……

★夫（彼）の親・兄弟の好きな所・尊敬できる所は？

- ・豊かではないが親・兄弟助け合って仲良し。
- ・思いやりが深く、抱擁力がある。
- ・自立している。精神的に。生活面で。
- ・人生を楽しんでいる。
- ・夫婦間で決めたことに口出ししない。
- ・庶民として、生きることにたくましい。
- ・おほかたのんびりしている。こまかい所にこだわらない。
- ・働き者で誠実。

★夫（彼）の親・兄弟の嫌いな所・価値観の異なる所は？

- ・私を「嫁」だと思ひ、新参者の家来のごとく私に接する。
- ・価値観も文化も違うのが当たり前なのに「嫁」に対して（夫の家のそれに）「従うのが当たり前」という押しつけがある。
- ・家についてとてもこだわる。実家について「私の家では」という話し方をすると、もう嫁に来たのだから家はこた、と言う。
- ・「子は親の面倒を見るもの」という固定観念の中でのつきあい方を私に期待している。
- ・（夫の）弟たちが（夫の）母をあごで使う態度は許せない。
- ・「男の子だから」「女の子だから」という発言がある。
- ・親離れ・子離れができていない。夫と夫の母親との関係には見苦しいものがある。
- ・世間体を気にする。

のもんだと思つてズカズカ踏み込んだり奉仕を求めたりする、という傾向がある。マスオさん現象も家父長制の亡霊ゆえ？

★帰省のたびにぐったり

★実家とも嫁家とも離れた地で暮らす長男の嫁の気持など……

しかし、盆と正月の二回だけは、帰省するorしない、するとしたら何日するのか、等々気が重い。この時期、夫婦仲もマズクなり、体調も崩れがちになる。

嫁家では、しっかりと嫁意識で迎えてくれる。私自身の中にも、「親世代とは意識が違ふんだから仕方ない。短い間だけなんだから、いい嫁してあげよう」というふりつ子意識がある。核家族の暮らしの中では頼もしく見える夫も、実家では子どもに戻り、何となく、かすんで見える。このギクシャクした何日かで、ぐったり、疲れる。

★「親戚」だからつきあわない

★一年一回ぐらいい訪問する以外はつきあっていないのでトラブルはない。

夫は五人きょうだいが今までに二回会っただけ。しかし毎年お年玉とか入学祝とかが非常に心のこもった手紙とともに送られてきて「入籍」の重圧を感じる。何度も、お礼状は夫or子どもが出すべきで私は書かない、という些細なことでもめている。夫が筆不精なので結局お礼も言わずじまいに終わることが多い。もつと心を広くもつて私が電話で「結構なもの子どもにありがとう」と言えばいいのだから？「入籍」さえしていなければ、きつと、すんなり愛想よく言えたのかも。

・戦前の道徳と旧家の誇りに生きる。どんなに誠意をつくし、手をさしのべても越えられない価値観のミゾがあった。

・自分の田舎の風習にこだわる。特に子どもに祝いの事など「嫁」の実家でやるのが普通だという言い方をされると頭にくる。

・時代、政府、政治に流される弱さがある。

・商売をしているのでお金儲け第一。そういう考え方が私のやりたいことをすべて飲み込んでしまっている。

・育児、食生活などさまざまなギャップが。例えば、子どもにやたらと甘い菓子を食べさせる、多すぎる小遣いを与える、断っているのにいろいろ物をくれる、などなど。

・言いたいことを言うやうに怒ったり、誤解を招くことが多く、意見交換ができない。

・怒りを自分の胸におさめて喧嘩は一切しない。何か私が意地悪してるとみている。

★夫（彼）の親・兄弟とどうつきあっているか？

- ・離れて暮らしているのでトラブルはない。
- ・気がばりしている。ために電話したりカードを送ったりしてコミュニケーションを絶やさない。相手のやり方に干渉しない。
- ・無理して相手に合わせない。「よい嫁」と思われなくても気にしない。
- ・うまくいっている。夫の親を、私は義理の親というよりも尊敬できる年上の友達のように思っている。でもそうなるまでは努力もした。例えば夫抜きでも遊びに行ったり旅行へ行ったり。
- ・姑とうまくやるためには自分の意見は言わない。「はい」「そうね」「まあ大変」「な

私の姑なる人は敬服するくらい「精神的自立」というのが身につけていて、親戚づきあいの悪さなど大したことがない、と夫の姉・妹・弟に言ったそう。

寝たきりになつたらどうしよう。本当に困った時は面倒を見る気持ちはある。そのためにも、ふだんのつきあいはしないでおこうと思う。お互いに知り合つてしまふと純粋な気持ちにならなくなるから。

★私は「気が強い嫁」？

★娘のことでよくもめてしまっています。主たる原因は相手が私を「嫁」だと思ふことにあると思つています。「嫁」とは立場が対等ではなく、それを私が対等に話をするから「気が強い嫁」「わがままな嫁」となるわけです。

夫の父親はともわがままに生きています。夫の父親はともわがままに生きています。夫の父親はともわがままに生きています。夫の父親はともわがままに生きています。

夫の実家は昔のまんま。夫の母が座り、父が立っている所なんか一度も見たことがありません。でも彼らは、それが当たり前だと思ひ、正當なことだと思つています。それを今さら、違うんじゃない？とこぼしを振り上げる気はないけれど、そう思つてない人間を愛人呼ばわりするのは、私が夫の実家で一番耐えられないことなのです。



- 苦闘の中で ●
夫の両親とは一年ほど同居して四年前から別居。でも彼は毎日必ず義母の所へご機嫌伺いに行き、週に一度は必ず泊りに行く。風呂も必ず義母の所で入る。夫の収入はすべて義母が管理。たまに渡される金額が足りなかつたりすると「あんたが取ったんだろ」と怒りの電話が来る。私と子どもの生活費はすべて私が自力でかき立てている。
- でも、このことで彼を責める気持ちはいくなくない。彼は他にはどうしようもない立場なのだということばかりすぎるほどわかるから泣くだけ泣いて、苦しむだけ苦しんで、あがくだけあがいて、今はもう「あきらめ」だけが残っているように思う。ただ、姑を通じて私は人間の天国と地獄を見てもらったように思うし、それがあつたからこそ彼ともより深く心の結びつきを持つことができたのだと思う。人の縁の不思議を思う。
(まともめ 西塔)
- 「義理の親子」関係を歪めるもの 西塔
「義理の親子」。物理的な距離やお互いの演技によって何とかやりすごせているうちはともかく、多くの場合、いつかはお互いのより濃密なかわりあいの中でどのような人間関係を持つのか問われる時が来る。
- 中には、夫の親・兄弟との間に自然な愛情が生まれ、よい関係を持つている人もいます。それは双方の相手を理解し尊重しようとする気持ちがかみ合った幸福な例と言えるだろう。だが、人と人との相性は多分に偶然的なものだ。
- 本籍は二人で暮らした最初の賃貸マンションの住所にした。長く住むところではないが、「二人で新しい戸籍を作る」というスジを通すため、こうした。
- 三、姓をかえるのはイヤ、
● 姓がかえるのがイヤだった。式の後一年半出産の少し前に籍を作った。子どもができたかったら、届を出したかどうかかわからない。区役所の係員が目の前で私たちの婚姻届をチェックし、必要な私の旧姓の部分を赤ペンで消していき、「夫中心」の書類に作り直されていくのを見て、ひどくショックを受けた。夫の姓に変わることで、夫の両親が子の世帯を自分の世帯に吸収するように感じているのではないかとふしがあり、別姓だったらしいのと思う。
- 四、再婚はそう、イヤな予感
● 冠婚葬祭にまきこまれる義務を感じた。
● しばられる、男に従属してしまうという気持ちにたまらなくなってきた。
- 自分の姓が夫の姓になることで、嫁として〇〇家にとりこまれてしまうことへの抵抗がありました。
- 五、特に疑問はない
● 私自身はやはり法律上でも結婚している、彼の妻であるという形を望んでいたもので、そのことについてはあまり感じません。
- 六、意味がない
● 子どものルーツを確実にするためだけの意味はない。
- 婚姻届にしろ離婚届にしろ、印鑑一つですんでしまうので、法律上の結婚などないとした意味は持たないと思う。

- ★ 家父長制をどう思いますか
一、反対！
● 全くナンセンス！〇〇家も嫁という言葉も嫌だし、私自身〇〇家の嫁とは思ったこともないし思いたくもない。この制度（？）いつになつたのかわからないの？
● 私は絶対イヤ。しかし兄嫁がそうしているのを黙って見ているのでは。そうさせているのでは。
- 生まれたときから男女平等の思想で育つてきている私たちにとって、まったくナンセンスな考え方。この考え方があつたかぎり、気持ちのよいつき合い方はできないと思う。
● こういうものが自立できない男をつくるのではないかと。
- 「嫁」という体のいい言葉を着せられた、単なる無報酬の雇人のような気がする。
- 男はけつこうりべルな人でも気づかないことなので、女がどんなに、悪く言われてもつづねねる（そのほうが嫁から逃れられるのでは？）努力をするのがよいと思います。
- お正月だけだから嫁やってもいいわ、とやり過ぎていると状況が変わったとき（老後など）本格的嫁になつてしまふ。次の世代に家父長制を伝えたいため、またアジアからくる花嫁にツケをまわさないため、信念を持つて家父長制を拒むべきだと思う。
- 女は男や家の所有物でも、男に従属する者でもない。家族は共同生活者であり、そこに上下関係がないのが人権を重視している家庭だと思ふ。そうした家庭環境、教育こそが抑圧のない社会への第一歩のはずである。

- 二、反対だけど……なかなか変わらない
● こりゃー根強い。うちの方なんて田舎だから余計にそう。でも日本文化の根本と言う感じもある。でも私はとてつもないゆけない。
- 嫁にはなりたくない。
- 個人でおかしいと思つても、地方色に押しつぶされる場合も多いと思う。心の奥から発するものなのでむずかしい。
- 今も残ると考える人間より、これからあつてあたりまえ、ここは日本よ、と考える人間のほうが多いというのを知っています。
- 三、だんだん変わっていくはず
● そう思い込んでる人を説得するのは大変です。自然に年月と世の中の流れが変えていくのでは？
- ある程度は仕方ない。そうすることにうまいくいのであれば……でもだんだん変わっていくでしょう。
- 四、老後がモンダイ
● 嫁に要求する制度にはまったく反対だが、彼の親が病気がちということもあり面倒を見る立場にある。人間としてつきはなすことはできないし、嫁の立場にだけ要求されても困る。人間としてはつておけない、でもめんどろくさいの繰り返し。
- 「私は嫁として彼女（母）の世話をしているのではなく、愛する人の母親だから世話をしているのです！」なんていつてしまった。
- 男の子のいる家では（我々の親の年代では）老後は見てもらつて当り前の意識があり、女の子はしなくて嫁に出してしまつた親たち、なんとか自力でやれるところまでやろうという覚悟みたいなものが感じられる。

- だ。ふつうの人間関係では、相性のよしあしによつてその人との距離を選ぶことができる。だが、その距離のとり方が自由自在にはいかない（と思ひ込んでいる？）ところに、「義理の親子」関係の一つのむずかしさがある。
- もう一つ、「義理の親子」関係に確実な影を落としているのは、「親」の側のぬきがたい「家」意識だ。「家」意識は、子どもや「嫁」を、「親」や「家」に奉仕させ、ついでに墓も守らせるシメベとみなす意識だ。今も結婚と同時になぜか女は「夫の家に入る」ものとみなされ、夫の家の「家風」に従うことや、「夫の親を自分の親と思う」ことまで求められる。そこには、「嫁」を、独自の意志や価値観や文化を持つ独立した存在と見る考えはない。
- このような「家」意識にもとづく要求や無神経な介入に対して「嫁」の側がNOと言えれば、それはトラブルになる。けれども、多分それは人間対人間の本当のコミュニケーションの始まりだ。その行方は必ずしも表面的には円満なものではない。徹底的に話し合いを求め、相互の理解を図ろうとしたうえ、結局相容れないという結論に達して関係を絶つた人。納得できない、と言いつづけたがらも、どうしようもない周囲の状況に、葛藤を抱えながら生きていかざるを得ない人。でも、私は彼女たちのたかひに敬意を表したい。
- 根強い「家」意識の中で状況は厳しい場合もあるけれど、次世代に向けて、他人ではあるけれど因縁浅からぬ、対等な大人どうしの関係を、できるだけ明るく、イメージしてみたい。

- ★ 婚姻届について ●
一、届を出すときは感じなかったが、モンダイあり！
● 学生時代からつきあつていたし、半同棲期間もあつたし、婚姻届を出してもそう生活内容には変わらないのだから、出してもいいんじゃない？姓だつてどっちだっていいけど、やっぱ、男性姓の方が慣例的で、便利そうだから夫の姓にしたっていいんじゃない？なんて思つていたけど紙一枚の締めつけのキツさをひしひしと感じ、後悔しています。ハイ、届にサインをした時はうれしかったのですが、その後日常で彼の妻と言う立場で見られがちで、私自身が薄くなつていく気がしましたし、両親や兄弟から離れてしまふ思いがしてさびしい気がしました。
- 二、新しい家を作るつもりで届を出した
● 自分が育つてきた「家」から早くぬけたいと思つていたので、彼と自分の戸籍を今住んでいるところに作つたときははつとした形のうえで彼の姓に改姓したが、「家」への従属からやつとぬけたかと思つていました。
- 夫の母から、新民法で新しい夫婦は家制度に縛られず、独立した戸籍を作ることと教えられた。夫は長男だが、夫婦二人の好きな住所の戸籍を作った。

- へ制度について ●
多様性のアラシのなかから傾向を探ってみました。（数字）は人数です。無回答、分類できない回答もあるので、合計は合いません。
- ★ 婚姻届について ●
一、届を出すときは感じなかったが、モンダイあり！
● 学生時代からつきあつていたし、半同棲期間もあつたし、婚姻届を出してもそう生活内容には変わらないのだから、出してもいいんじゃない？姓だつてどっちだっていいけど、やっぱ、男性姓の方が慣例的で、便利そうだから夫の姓にしたっていいんじゃない？なんて思つていたけど紙一枚の締めつけのキツさをひしひしと感じ、後悔しています。ハイ、届にサインをした時はうれしかったのですが、その後日常で彼の妻と言う立場で見られがちで、私自身が薄くなつていく気がしましたし、両親や兄弟から離れてしまふ思いがしてさびしい気がしました。
- 二、新しい家を作るつもりで届を出した
● 自分が育つてきた「家」から早くぬけたいと思つていたので、彼と自分の戸籍を今住んでいるところに作つたときははつとした形のうえで彼の姓に改姓したが、「家」への従属からやつとぬけたかと思つていました。
- 夫の母から、新民法で新しい夫婦は家制度に縛られず、独立した戸籍を作ることと教えられた。夫は長男だが、夫婦二人の好きな住所の戸籍を作った。

最後にアンケートより
●考え方は相手のことだから、今後は法制度が（夫婦別姓、嫡出子、非嫡出子、戸主、扶養制度etc）変わらなくては、入籍してしまわれることがだんだんわかってきた。

五、それなりによい面も……
●良い制度とは思えないが先祖のことを考えると、財産や墓を守っていくためには合理的な面もあると思う。こんなわけで「家制度」が残ってしまう気がする。
六、やりかた次第
●うまく知恵を使い、ある程度鈍感になり、自分を大事にし、他人を尊重すれば、家父長制を信じる人をも味方につけることはできると思います。姑、嫁の関係を意識すればするほど「家」制度は残ります。片方がうまく相手を操ればいいはずですが。
七、その他いろいろ
●普段あまり考えることのないテーマだが、今回静かに考えていたら、それって完璧な性差別だわと思った。
●女を「嫁」と言うワケではめこんでいる場合が多く、夫は自分の親から妻を守るところか一緒に使用人として扱っていることがよくあります。家や姑とのことというより夫がしつかりしてくれない限り、そして親も自分も本当に大人になつていけない限り、一生ゴタゴタともめ続けなければいけないのではないのでしょうか。
●女へんに「家」で嫁、「古い」で姑の漢字からなんとなくききませんか。これこそ家父長制のなごりだ。
●七五三はどっちの家にやってもらうとか、長男だから家はもらうとか、「嫁」してなくても〇〇家からの奉仕だけは要求する友人などもいて、嫁も姑もどっちもどっち。双方ともにとらわれているのが現実といえるかも。
（まとめ 梶本）

へ血縁ってなに？



★自分の親、夫（彼）の親ってどんな存在？
●自いつまでたってもやっぱり親。子どもを心配してくれるのはありがたいが、重荷。年取ってきたので今後は心配。
●自至上の存在です。今でもわがままを聞いてくれる唯一の存在です。
●夫子どもたちのおじいちゃん、おばあちゃんにすぎません。
●自血縁を分けた関係で密。
●夫他人に感ずるがそういう態度がとれず、又とってはいけなそうに困っている。
●自ないがしろにしがちですが、病気になるたらどうしよう不安。
●夫結婚前は親同然と思っていたけど、今はねえ。
●夫親にかわりないが、理解しがたくずしつとわからない。こわい大人というイメージ。
●自血縁を分けた他人。
●夫全くの他人。
●夫ありがたいと思うが、少しうるさい存在。
●自かなりの権力者。知識・経験・経済力・社会的地位、何をとってもかなわない。かわいがつてもらっているが、少しクムタイ。
●夫暖かい田舎の夫婦。やさしくて、気楽。
●自元気でいてくれるということが心の支え。
●夫父しいなく、あれこれおしゃべりする。こともなくちよつと申し訳なく思っている。
●どちらの親に対しても「感謝」「尊敬」「いたわり」。彼の方はもう両親とも亡くな



を切りませんか。本当のパートナーシップを築くために。「嫁だから」「姑だから」の不幸なワケを外して、特別の縁ある人間同志になるために。
つぎに制度を点検してみると……
今の憲法、民法の条文では確かに家制度は否定されています。けれどもアンケートにみるように、改正から四十年以上たった今でも家意識はどっこ生きています。これは日本人がガンコなせいでも、家制度を守ることが人間にとって自然な感情だからでもなく、制度面で家意識が残るよう仕組まれているためだともう一つ。（戸籍の存在、夫婦同姓の強制、非嫡出子への差別、墓の継承の仕方など）
例えば夫婦の姓の問題ですが、世界広しといえども、結婚する時に片方が旧姓を捨てて、夫婦が同じ姓を名乗ることを法律で強制されている国は他に例がありません。別姓が普通（中国）、規定なし（アメリカ、イギリス、フランス）、同姓別姓複合姓などいろいろ。（北欧諸国、ソ連）というように。もし高橋サンと鈴木サンが結婚して、鈴木サンが鈴木サンのままだったら、「高橋家に入つた」とか「ウチの嫁」という感覚は、ゴリゴリの家父長制信奉者でも持ちにくいのではないのでしょうか。夫婦同姓を強制することで、家制度は実質的に生き残ってしまったと思うのです。新民法を立案する過程では、婚姻届をなくす事実婚主義、夫婦の姓については同姓も別姓も自由、などの抜本的な改革案が検討されました。けれどもガチガチの家制度が根を下

意識の改革から制度の改革へ
梶本
まずはコトバの問題から
夫婦別姓が普通に語られる世の中になりました。でも「入籍する」って今でもよくいいますね。考えてみるとこれはちょっとヘンです。
明治民法は、「妻は婚姻によりて夫の家に入る。入夫および嫡妻は妻の家に入る（第七七八条）」と定めていました。だから「入籍」なので。それに對し今の憲法は「婚姻は、両性の合意のみに基づいて成立し、夫婦が同等の権利を有することを基本として、相互の協力により、維持されなければならない（第二四條）」と定めています。それを受け今の民法は、「夫婦は、婚姻の際に定めるところに従い、夫または妻の氏を称する（七五〇条）」となつています。戸籍については男性も女性も親の戸籍から出て、新しい戸籍を作るわけです。だから本当は「作籍」というべきなのかもしれません。
昔から結婚すること籍を入れるっていつてたんだからいんじやない？、要するに習慣よ、言葉なんてしよせん記号だし、めでたいんだし……といわれそうですが、そこはたかが言葉、されど言葉。人間は言葉を使わずに考えることはできません。だとすれば、言葉が意識をつくる部分はけっこう大きいと思います。「籍を入れる」というたびに、あのいやーな封建的イデオロギーを無意識のうちに補強、再生産しているような気がするのです。はじめの一步は言葉から「婚姻届を出す」といいかえて、明治民法の世界と意識的に手

を切りませんか。本当のパートナーシップを築くために。「嫁だから」「姑だから」の不幸なワケを外して、特別の縁ある人間同志になるために。
つぎに制度を点検してみると……
今の憲法、民法の条文では確かに家制度は否定されています。けれどもアンケートにみるように、改正から四十年以上たった今でも家意識はどっこ生きています。これは日本人がガンコなせいでも、家制度を守ることが人間にとって自然な感情だからでもなく、制度面で家意識が残るよう仕組まれているためだともう一つ。（戸籍の存在、夫婦同姓の強制、非嫡出子への差別、墓の継承の仕方など）
例えば夫婦の姓の問題ですが、世界広しといえども、結婚する時に片方が旧姓を捨てて、夫婦が同じ姓を名乗ることを法律で強制されている国は他に例がありません。別姓が普通（中国）、規定なし（アメリカ、イギリス、フランス）、同姓別姓複合姓などいろいろ。（北欧諸国、ソ連）というように。もし高橋サンと鈴木サンが結婚して、鈴木サンが鈴木サンのままだったら、「高橋家に入つた」とか「ウチの嫁」という感覚は、ゴリゴリの家父長制信奉者でも持ちにくいのではないのでしょうか。夫婦同姓を強制することで、家制度は実質的に生き残ってしまったと思うのです。新民法を立案する過程では、婚姻届をなくす事実婚主義、夫婦の姓については同姓も別姓も自由、などの抜本的な改革案が検討されました。けれどもガチガチの家制度が根を下

自分の親と夫(彼)の親、一人の人がその両方を語ることによって、はっきり見えたなと思つた。自分の親は自分の親であり、夫の親は夫の親であつて、自分の親ではないといふことが、あたり前といえれば本当にあたり前のことなのに、私自身、今回のアンケートで改めて認識させられた。なぜだろう。

現実では、このことは無視され(または包み隠され)、親同然であると思われされる。しかも、本当の親ではないだけに、よりきちんとした親孝行を求められるのではないだろうか。そしてそれをいやだと思ひながらも、な

アンケートをまとめてみて

後藤

人間関係にあこがれています。

●血縁にこだわるのは好きではない。また日本は、農産中心の社会から、移動型の社会になつたのだから、子育て、病気、老後の世話などを血縁に閉じてしまうのは不合理。もつと心を開き、家を開きたい。

●私は子どもを施設からもらつて(養子にして)育てたいと思つていたので、血縁でがんじがらめ、血縁中心の日本は大嫌い。この「もらい子」の話をすると、夫側、自分側どちらも相手にしてもらえなかつたけれど、私の胸の中ではずっとあたたかっている。

●人間は単に、遺伝子を次の世代に伝えるためだけ、生存しているのだ。(つまり人間は単なる遺伝子の「乗り物」なんだそうだと)という考え、面白いと思う。(そう考えると、生きていくのが楽になる)。「血」は遺伝子を運ぶ川みたいなものかな。

自分と自分の親の関係がクールでぎこちないので、子どもとは気楽につき合えて、世代のちがう。大人どうし。としてやっていきたい。でも本心では、子どもに対して「もう成人なのだから」とつき離したくない。死ぬまでは「大人どうし」である一方、やはり甘えられてもよいと思う。

●親離れ、子離れできるようにと願っている。●とにかく義母にいやというほど、イヤ！なお手本を見せていただいているので、義母と同じでなければ何でもいい。

●どんな姑になるのかは：相手によるのでわかりません。

●友だちのように、一緒に酒でも飲めるようになりたい。

●自分の子どもも他人の子どもも、大人になつてどんな価値観を持った人間であるかによつて、つき合いかつき合わないか、どっちか。

ほとんどみんな思っていることが同じつて感じて、一人の理想的な親像が、くつきり見えるようです。そうならたらしめるけれど、「本当にそうなるの？」つていじわるをいいたくなります。私は、なれないだろうなあ、というところから始めます。どつちしろ、そうなるには、今からだよ、と思います。経済力がなかつたら、健康でなかつたら、どうするか気になります。

●親から受けた影響によるものの、大きさを感しました。(後藤)

★どんな親、姑になりたい？どうあるべき？

●とにかく子どもは自分とは全く別な人格、存在であるという当り前のことを認識している親、同じ地球に生きる仲間として、血縁にたよらない関係でいたい。

●子どもは子どもの人生を歩んでいけばいいのだし、遠くから見守つて、基本的には別々に生きていくべきだと思う。それには年々いとも、健康でいなければならぬと思う。

●自立して欲しい(精神的に)。心身ともに健康で、やりたいことや夢のある人であってほしい。

●夫婦仲良く暮らして、子どもに心配かけない。

●自分の親を考へて、苦にならない親でいたいと思つている。具体的には死ぬまで自活し、きちんとものが言える老人でいたい。

●たぶん他人が一緒に生活をしていようという気がするので、子どもは自立して欲しいと思ふ。何処でもどんなところでも、生き、死ぬというふうになりたい。子どももそうなるのはいいかも。

●同居は望みません。独立した子どもたちを自分の家に迎える時、「おかえり」とは言いにくいです。

●ひとこと言え、大人同志の関係が結べる親(姑も同じ)。親子の場合、完全な保護と支配的關係から出発するので、なりゆきまかせ、情まかせでは、新しい関係に移行できない。むずかしいだろうなあ。

●なるべく干渉せず、又自分の価値観を押しつけない親(姑)になりたい。しかし自分の母によく似て「自己中心的」な私には、かなり努力しなければ、むずかしいことだと思つている。



(後藤)

●自分と自分の親の関係がクールでぎこちないので、子どもとは気楽につき合えて、世代のちがう。大人どうし。としてやっていきたい。でも本心では、子どもに対して「もう成人なのだから」とつき離したくない。死ぬまでは「大人どうし」である一方、やはり甘えられてもよいと思う。

●親離れ、子離れできるようにと願っている。●とにかく義母にいやというほど、イヤ！なお手本を見せていただいているので、義母と同じでなければ何でもいい。

●どんな姑になるのかは：相手によるのでわかりません。

●友だちのように、一緒に酒でも飲めるようになりたい。

●自分の子どもも他人の子どもも、大人になつてどんな価値観を持った人間であるかによつて、つき合いかつき合わないか、どっちか。

ほとんどみんな思っていることが同じつて感じて、一人の理想的な親像が、くつきり見えるようです。そうならたらしめるけれど、「本当にそうなるの？」つていじわるをいいたくなります。私は、なれないだろうなあ、というところから始めます。どつちしろ、そうなるには、今からだよ、と思います。経済力がなかつたら、健康でなかつたら、どうするか気になります。

●親から受けた影響によるものの、大きさを感しました。(後藤)



☆寄せられた切実な声、声、声——載せたかったけれど紙面の都合で今回は削らざるを得なかつたアンケートの回答や原稿が沢山ありました。次号以降の「あんふぁんて」に載せさせていただきます。

＜編集メンバーから＞

●年とつたらあんふぁんてみたいなお婆さんのネットワークをつくりたい。ちよつと具合悪いんだけど誰か来てくれる？なんてのも、いちいち「若い者」に頼らなくてもいいような頼りになるのをね。(西塔)

●「編集」という作業を生まれてはじめて体験しました。「日本語が読めればできるのネ」というのが実感。胸にあたたかみを感じた。

●独断と偏見でアンケートをまとめました。三人それぞれに思い入れが深く、話も白熱しました。会う回数が少なかつたわりには、密度の高い話ができたような気がします。三人三様だなぁと思ひました。(後藤)

★血のつながりって？

●血のつながりは大切だと思う。親戚同志は仲良く楽しい関係であってほしい。

●人間の本能に基づく関係なので、善悪はいえないと思う。夫の親が、嫁より娘や息子を大事に思うのは本能に正直なことと、それはそのまま受けとめるしかないと思う。

●私の兄の子はけっこう心からかわいいと思ふけれど、夫の姉の子にはそういう気持ちがない。これフシギ！

●血のつながりつてやっぱおそろしい。理屈じゃないみたい。血があるゆえに干渉しあうのは考えもの。

●あたたかいものであり、わずらわしいものである。うまくいっている時はいいが、だめな時は、血のつながりがあるだけにめんどろたちきれない。

●以前よりかは、血のつながりよりも、もの考え方とか、一緒に何かをすることに人とのつながりに信頼がおけるようになったと思う。けれどもまだ心のどこかに、血のつながりを一番信用しているところがあるように思う。

●結婚によつての相手の親戚関係を、なかなか受け入れられない。

●今、皆忙しくて、一番深く長くつき合うのが血と親戚なんだけど、これは自分が選んだものではないので、愉快でも、楽しくもない。

●「血」伝々よりも出会ったことの方が重要。核家族を中心とする現在では、その狭い関係のみにこだわる事は、人の気持ちを貧しくするだけだと思う。

●血のつながりでなく、自分の意志で選べる

★
●BBBの富沢さんの紹介で入会。バックナ
ンバーを読んだら、頭張っている人って
本当はたくさんいるんだ！と感動してしま
いました。「何かやりたい」自分がいても、気
付かないうちに「○○ちゃんママ」として
夢までも忘れてしまっているなんて悲しい
ことだと思えます。今の時代に生きて、本
当の意味で自分らしく生きたいと思ってい
る人ってたくさんいると思うし、私もその一人
です。子どもがいて頑張っている方の刺激を

★
●富沢さんの紹介で入会。近辺の会員が少な
いので残念ですが、会報の情報から、おめ
にかかりたいと思つた方に連絡させて頂きまし
た。今、人間関係もドライに考える人が多い
ですが、だからこそ多くの人と触れ合ってい
きたいと思えます。
●ある講義で〇〇さんは生まれたあと無意
識に植え付けられた「生産性を上げるため男
性の労働力を最大限引き出すよう、主婦は家
事・育児に専念するような政策的な社会の動
きから」と聞きました。このらしさにとらわ
れ自分を失つたりストレスを感じる人が多
うなと思うので、その辺の意識や、自分を取
り戻すため何が出来るかなど、皆さんと話し
たいです。
●個性が求められますが、画一的な個性です
よね。目立つとたたかれます、学校でも社会
でも。もつとのびのびと生きていけたら……

★
●古川 さんの紹介です。彼女は入会以来
の会報を大切にファイルしていました。グル
ープリストをみて、「子連れ熱通信」を見せ
ていただきました。また「せびあ」に入会し

★
●産婦人科の雑誌で紹介記事を読み、「コレ
だ！」と思わずさま入会。「あんふあんて
セビア」の方にコンタクトをとり、地元の利
点で今度会うことになりました。
●一般的に子連れではできない、あるいは不
適当と思われるコンサートや映画鑑賞に子連
れ・赤ちゃん連れで行けるものを企画したら
面白いのではと思っています。
●先日、初めて子連れで海外旅行（グアム）
へ。赤ちゃん連れツアーも全く同じ日程であ
ったのですが、結局迷った末普通のツアーに
参加。行動派の主人と二人で、これで子連れ
かと思えるほど行きたい所へ行き、遊んで来
ました。子どももそれなりに楽しんでいた様
子。いろいろ失敗もありましたが、今度は二
才になってから行きたいと思っています。

★
●五年位前育児雑誌で知り、資料を送って
もらい、入会は今年の三月。近くの会員が一人
だけいたが、仕事で忙しく会える感じではな
かった。電話で話したのみ。
●五年前は近くの友人を求めていたが、今は
そうでなく、小さい子どもが三人いると育児
だけの世界に閉じ込められ視野も狭くなりが
ちなので、あんふあんての会報を読んだりし
て、少しでも様々な問題に触れたり見たり聞
いたりしたいと思っている。三人の子連れで無
理せず参加できそうなものには、積極的に参
加したい。

★
●義母にもらった育児書のページをめくって
いて知りました。区内の会員に呼びかけて会
う予定。準備段階です。
●三十五才での再就職の為に勉強中。今年か
ら仕事を再開するつもりだったのが、保育園
が決まらず断念。感性を鈍らせない為、毎日
キョロキョロしています。私はテキスタイル
デザイナーです。



新人会員

自己紹介コーナー

●入会のきっかけと会員リストの利用状況
●とりあげたいテーマ・企画
●近況・自己紹介
●友人から聞いて入会しました。近郊に会員
の方がいないし、引越して日が浅く生活もま
だ落ち着いていないので、リストはまだ利用
していません。
●託児付きの講習会など（子連れでもいろ
ろ学びたい？）
●二十数年生活をした東京と離れ、知る人
一少ない土地へ来て二ヶ月。徐々に行動範囲
を広げていこうと思う今日この頃です。

★
●某雑誌で拝見したKサンにお便りを出しま
して、紹介して頂きました。
●「私のおすすめの本」などの特集があると
いいなと思つています（子育て・仕事・心
などテーマ別）。あと、資格取得のための
スクール案内や在宅の仕事特集などを！
●九月に女の子を出産して、ただ今育児に奮
闘中です。子育てが一段落したら仕事を始め
たい。まず、校正などの在宅を考えているの
ですが、よきアドバイスをお願いします。今
気になることは、アレルギーのこと（私がや
やそうなので）です。

★
●両方とも自分の仲間うち通信を出す
のにとともに参考になりました。
●市川市の社会教育講座に保育をつけてはし
いという働きかけを計画、会員リストを見て
市内の方に趣旨を説明する葉書を出しました。
お返事は低いのですが、古株（失礼！）の方
々と知り合うことができ、ヨカッタ、ヨカ
ッタ。
●①親の老後、私たちの老後。
●②ウチの近所の女性会館（公民館、地域セン
ター）ではこんなことをやっています。公共施
設をフルに活用する方法！
●③あなたはどんなお墓に入りたいですか。
●④インフォームド・コンセントって何だろう。
●あなたの主治医はちゃんと説明をする人です
か。たとえ不治の病気でもあなたは説明を受
けとめられますか。日本以外ではどうでしょ
うか。海外の会員の生情報も交えて、問題だ
らけの日本の医療を考えてみたい。
●⑤死に方のデザイン。
●もう助からないのに医師が馬鹿になって人
工呼吸をしながら死ぬ、病名を知らされず疑
心暗鬼のカタマリになって死ぬ、なんていや
だから死に方にも早めに注文をつけておきた
い。
●今月号の特集編集メンバーに入れてもら
いました。皆さんから寄せられたアンケートを
直接見ることができて本当にうれしい！まだ
お目にかかったことのないあの方もこの方も
とても身近に感じます。



あんふあんてから

あんふあんてへ

アトピー特集を読んで

目黒区

あのアトピー特集掲載の原稿を送ったその足で、渋谷の皮膚科へ行きました。そこは、アトピーの友人が紹介してくれたよい先生の所です。美馬（みま）先生から「これはアトピーではない。オチンチンがかゆいのは、おしっこカブレのせいです。体が小さいので、十人中前から二番目くらい」ともつとどんでん丸いものを食べさせなさい」と言われ、目からウロコがポロリその日から、本人の好きなようにさせました。

また、食養（マクロビオティック）料理にも理解のある歯科の先生からも、「しめすぎです。もつとゆるめなさい」とアドバイスを受けました。長男も次男もしまつてしまつたので、目下ゆるめてのびのびさせています。しかし、食養家は、性だといひます。私もそこをわかっておきます。病気になる時は、食養はいいと思ひますが、日常は本人の本能を信じたいと思ひます。なお、何をやってもかんばしくないので、方、ぜひ骨盤調整や、背骨のゆがみをみてもらうことをお勧めします。必ず解決するはずで。

自分の親との二世帯同居

新宿区

都会のまん中に家族四人、家を借りれば家賃は十万元以上、家を買えば一億円。彼が嫌がるかと当初は心配したが、都会の物騒さと便利さを考慮して踏みきった。むしろこだわりは私の方に出てきた。

お醤油がきれた、ネギがないなんていう時、雨が降ってきた洗濯物という時、夫婦でコンサート子どもどうしよう、ちよつと預つて、などなど、本当に、便利で助かる。

しかし、老人ふたり向きあつていてもおもしろくないのかすぐ孫を呼びに来る。ただ遊んでくれるならまだいいのだが、テーブルの上にはおやつがずらりと並び、時間かまわずの毒々しいやつと甘いもの。せつかく昼寝でねかせたかつたのという時でもこちらの都合かまわず連れていってしまふ。子どももわかつていて家で遊んでいてつまらなくなると「おばあちゃんに行こう」だつて。

このところが重要なんだけど、自分の親だといくらやめてくれと注意しても馬の耳に念仏。これがお姑さんだつたら一応は嫁さんの意見をきき、譲歩するのではないかしら？ お互いに気まずいまま生活したくないから、血のつながつた親子だと、喧嘩したり言い争つたりしても恨みを根に持つというところが暖味のまままあいいじゃないとなつてしまふ。この何となくの甘えた生活から脱出したいくて密かに地方脱出を狙つてゐるのだが……。

図書コーナー

★あまり深く考えずに法律上の結婚をしてしまった人、今回のアンケートに答えを記入しながら「結婚って何？」という疑問が頭をかすめた人へ

「結婚届」出す理由と出さない自由

毎日新聞社刊 定価1311円

★現在の夫婦円満の人も、家庭内離婚の人も、シングルマザーの人も

「母子家庭にカンバイ」児童扶養手当の切り捨てを許さない連絡会

（児扶連）発行

定価500円＋送料210円

申込は郵便為替か小額切手で児扶連へ

児扶連がまとめたパンフです。元気にそしてしなやかに暮らす母子家庭のやり方がつまっています。



「就学時健康診断を受けません」と

六年ぶりに言ってみたら……

府中市

小学校入学前年の秋に行なわれる、ご存知就学時健康診断（以下、就健）。来年の入学を控えたわが家の下の娘にも、教育委員会から通知がきました。

就健実施の目的は学校に入つてこられては困るような子を事前にチェックし、相談とか指導とかの名目で別の学校に振り分けることだ……と理解している私は、六年前、上の娘の時も「健診に反対なので受けません」と電話しました。その時は、電話を受けた教育委員会の担当者が、「入学する子は絶対受けなければならぬ」とか、「入学する子は絶対受けなければならぬ」とか、「入学する子は絶対受けなければならぬ」とか、そのうち学校からもそれなりの連絡がある」とかしつこく言つていました。でも、結局それっきり。こちらは、あんふあんての会報のバックナンバーから就健関連記事をかき集め、もし教頭が来たらどう言おうかなんて研究したのに残念でした。へ学校は就健を実施するよう法律で定められていますが、受ける方には受けなければならぬ義務はありません。

ところが今回は、最初の応対からして違つていたのです。とつても低姿勢で、「こちらとしては受けて頂きたいですが、そちらのお考えがどうであれ……」とか、「公立の学校すべてに設備が整つていれればいいのですが、現状はそうでないの……」といった具合。ここ十年くらいの間に、さまざまな形で就健に異議を申し立ててきた人たちがいたから、お役所の態度も違つてきたのかも知れない。私、私は単純に喜んでしまひました。



でも実際は、すでに就学年齢になる前に役所の方でそれぞれの子どもたちの状況をつかんでゐるので、就健の意味が薄れてきてゐるのかもしれない。夫は、「マニニアルがかわつたんだろ」と言つていました。なるほど。でも、向こうの態度が変わつても、親や本人が決めるのならともかく、学校・役所の側が教育しやすいかどうかという観点から「この子は入学していい、この子はダメ」と子どもたちの間に線を引くことは、未だに納得できません。それに入学後、落ち着いて席に着いていられない子や学力の低い子などがお荷物扱いされることが、中学校でコース別に色分けされて子どもたちも分断されていくことも……だから、これからは分断されていくことも……だから、これからは分断されていくことも……だから、これからは分断されていくことも……

★子育てに自信をなくし迷つてゐる人、父親も子育ての本質にかかわつて欲しいと思つてゐる人、育児仲間を求めている人へ

「子育てカウンセリングROOM」

三沢英夫、直子著（別冊ベビーエイジ）婦人生活社 1200円

あんふあんての会員でカウンセリングでもある三沢さんが、夫と二人で雑誌に連載したものをまとめた本。「よそのお母さんはどうしてニコニコ子育てしてゐられるの？」と落ち込む人に、皆そうだと教えてくれます。

★思い通りに子育てしてゐるつもりの人、子どもは親とは別の人格と気付いた人も、昔先生や大人に反発した経験のある人も、子どもの年齢にかかわらずみなにおすすすめ

「子ども発 知りたい国連子どもの権利条約」

伊藤書佳・小林広樹・三嶋信行共著

ジャパンマニニスト 880円

子どもにも人権があるなんて当たり前でしょ。なのに、この（条約）を日本がどうして「守ります」つて、すぐ決められないのかしら？ やつぱり大人、というより管理する側が子どもに「権利」なんて渡したくないし、しっかりと「人権」意識を持った大人に育つてほしいと思つてゐるからだ。

この本は分かりやすいから、学校生活を始める子どもに手渡せるよう、とつておいた方がいいと思う。

覚えていますか

チエルノブイリの

原発事故を? その49

『ダーク・サークル』を観て

牛島

今まで特に核について関心があつたわけではなかったし、環境問題にも特別な関心はない。まあ人並だと思ふ(自分で行動するほど関心はない)。このビデオも、まあ観てみようかな」と思い借りて来た。

ブルトニウムの人間に与える影響のひどさ、その事に気が付かない人たちが、同じ人間の事なのだが、なぜか現実の問題としてはとらえにくい。核の影響に関しては、もっとショッキングなシーンを以前見た事がある。放射能の影響についてのドキュメンタリー番組で、映されたアメリカ人男性の右腕は普通なのだが、左は。カメラは肘から少しずつ指の方に移っていく。肘から突然ビヤ樽のように腕が太くなり、手はグローブのよう。それも、指が第二関節から先がない。まるで醜い蟹のようだった。この時の印象が脳裏に焼き付いて離れない。だから、核そのものの影響に関しては『ダーク・サークル』よりもドキュメンタリー番組の方が印象が強い。ただ、『ダーク・サークル』の中では、人間の心理を見せつけられた。

ロッキーマン・フラッツ(ブルトニウム工場の名)の近くにある分譲住宅地。子どもの体内への影響を心配した母親は、付近の住民に工

情報コーナー

お元気ですか?

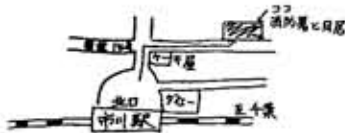
マッカーシー

私は今、免許を取るために自動車学校に通っています。新住所です。

場についてどう思っているか聞いて回る。大半の住民は全く関心を示さない。一体彼女はとうするつもりなのかと、ハラハラしながら見ていた。そして半年後、彼女は引越す事になった。やつと家が売れたのだ。その時彼女が言った言葉が忘れられない。「今度この家に住む人たちに、工場の事は知られたくない」と。一瞬、彼女の表情が曇ったが、本音だろう。以前、不動産屋で工場の事は一言も言われなかった、と怒っていた彼女なのに。そして、今度引越して来る人たちに、彼女と同じように子どもがいるのに。人間なんて、直接自分の身にふりかかるなければ、面倒な事には関わりたくない。これが本音なのだと思う。そんな事を痛感させられた。

★

★午後のおしゃべり会はいかが? あんふあんて市川が一品持ち寄り親睦会開きます! 12月21日(出) 1時半~4時半 オープンした市川市女性センター調理工房(電子レンジ有) (JR市川駅より徒歩3分) 子連れ夫婦歓迎。前日まで連絡下さい。



市川は遠い! というイメージですが、東京やお茶の水から20分、意外と近いのです。日頃集まるチャンスの少ない、千葉方面・総武線沿線の方、ゆつくりお話しませんか。

★'921月の土曜あんふあんて

『新年会』やりま〜す。

1月25日(出) PM6時~ 神楽坂の幾代宅で。各自料理一品持ち寄り。飲み物代は実費。食べる物は手作りでも、買っても、何でも良いですよ。年が新しくなったからと云っても毎日の流れは同じ。でも、一年を振り返ると、結構、自分自身も回りも変わっている。あらっと思うこともあるよね。そんなこんな。それぞれの近況の語らいをしよう。

幾代さん宅は、地下鉄東西線の神楽坂下車、飯田橋寄り出口より歩いて3分です。地図はグループリストの土曜あんふあんてに載っています。みなさん、参加してください。(福野) 申込は1月23日(木)までに事務局へ。

あんふあんては 経済的に沈没寸前!

■90年10月~91年9月のお金の流れ

<入の部>	
①参加費	2,882,080円
②雑収入	101,919円
合計	2,983,999円
<出の部>	
③会報印刷費	565,500円
④会報郵送費	386,892円
⑤保険料	126,230円
⑥事務局人件費	1,040,000円
⑦事務局家賃	600,000円
⑧事務通信費	100,667円
⑨事務印刷費	165,618円
⑩事務用品費	77,981円
⑪資料費	7,860円
⑫スタッフ交通費	101,700円
⑬雑経費	800円
合計	3,173,248円
繰収支	▲189,249円

③印刷費はページ数を増やした分、前年度よりかかっています。7月から部数を100部減らしたので、今後は前年度とほぼ同額になる予定。

④は会員が減った分、郵送料も減りました。

⑤の住友海上火災へ払う保険料は今までと同額。けがは一年間で3件あり(あごをぶつけて切った・転落し頭部打撲・転落し骨折)、保険金を請求したのは骨折1件。あとは免責金額(3000円)以下のけがで、事務局から6,230円を負担しました。

⑥人件費は今まで月10万円を計上していましたが、2月からは事務量が減ったということ(但し事務窓口としての精神的負担は減ってはいません)、8万円に減額しました。

しかし、なんといっても会員が減る一方なので、会の基盤である参加費がグッと減り、90年度の収支としては189,249円の赤字になってしまいました。

■今年度(91年10月~)への繰越金

現金	48,688円
郵便口座	447,584円
定期預金	400,000円
③合計	896,272円
<本の繰収支>	
密室育児からの脱出	76,885円
お産サイドブック	32,140円
本製作費未払金返済	▲96,035円
④収支	12,990円

赤字とはいっても現在あんふあんてがどうしてやっていっているのかといえ、下のようになっています。④があるからです。今後これを切り崩して使っていくことになりそうです。健全運営とはいえませんが、本の売り上げはやっぱり黒字④になりました。印刷費等の借金も完済でき、今後の売り上げはすべて収入になっていきますが、これは通常の活動費以外のもの(本出版やイベントなど)用として別にとっておきたいと思っています。

■さて今年度の見通しは...

会員数は10月1日現在で451名。ちょうど一年前には616名でしたからだんだん減っているというより激減といえます。(下段右表)の③参加費は400名がきちっと払ってくれるという想定ですが、会員が増えない限り少なめの見積もりとはいえませんが。③毎月

お金を稼ぐことも 考えてみよう!

<入金見込み(1ヵ月分)>	
③参加費(500×400名)	200,000円
<出金予定(1ヵ月分)>	
会報印刷費	57,000円
会報郵送費	32,000円
人件費	80,000円
事務局家賃	50,000円
事務通信費	8,000円
事務印刷費	14,000円
事務用品費	7,000円
交通費	9,000円
④合計	257,000円
③収支	▲57,000円

の赤字を③繰越金と④経費をこれ以上、切りつめるという消極的な姿勢でいては、とても会を維持できません。会の活動を活性化して会員を増やすと同時に会費とは別の収入源も考えてみませんか。

今のところ、会報の特集で反響の大きかったものを軸にパンフレットを作って、会のアピールと収入源にする案も出ています。「お産サイドブック」と「密室育児からの脱出」もまだまだ新鮮で好評です。プレゼントにもって買ってくださいね。もちろん他に何かひらめいたら、すぐ連絡を。みんなで稼ぐアイデアもふくらませ、行動していきましょう。

(大山)

★医者任せの医療に疑問を持つ人へ

アメリカの国立衛生研究所の乳ガン患者向けパンフレット「セカンドオピニオン・シリーズ」が、翻訳されました。セカンドオピニオンとは主治医以外の医師の意見のことで、患者が自己決定するためには欠かせないものとされています。日本語版は①乳ガンの基礎知識から、②進行ガンと生きるまで10冊セット（平均14ページ）で、無料で入手できます。アメリカの医療にも深刻な問題（例えば金の切れ目が縁の切れ目）がありますが、「お医者さまにお任せ」の医療から脱皮しようとしている日本にはよい刺激になると思います。また「インフォームド・コンセント」や「死への準備教育」とは実際にどういうことなのかがよくわかります。安心して患者になれる医療を作っていくために、このパンフレットが一組でも多く世の中に出るといいなと思います。

南雲美容医学研究所・☎03(3490)5757へ電話すると、無料で送ってくださいます。（税本）

へスケジュールメモ

12月21日(出) おしゃべり会（市川女性セ）
12月25日(火) 1月7日(火) 事務局休み
1月14日(火) 切手貼りとおしゃべり
10時半・2時半・要升当（事務局）
1月22日(水) 定例会（ミーティング）
11時・要升当（中野区女性会館）
1月25日(出) 新年会（神楽坂・幾代宅）
2月3日(月) 1・2月合併号発送作業
10時半・要升当（幾代宅）

事務局から

●あんふあんての会費は前払いが原則です。特にグループに入る人は早めにお願ひします。活動に参加しはじめていても、郵便局からの振込日時以降の事故でないと保険が適用になりません。

●月末で会費が切れる人には、会費を送る時に一緒に振替用紙を入れていただきます。その後、四ヶ月後と半年後にも入れますので、未納分と今後の会費を併せて振り込んでください。会員証は領収書の代わりなので保管しておいて、振込と入れ違いに請求が行った場合はごめんなさい。振込の記憶と請求月とが違う等疑問があればご一報ください。

●会費で何かを呼びかけたい人、先月号に載っていた○○さんに連絡を取りたいという人、事務局まで連絡ください。「○○あんふあんてを開きたい」「こんなテーマで原稿募集したい」という場合は、情報コーナーに載せるだけでなく、地域の人や該当する人に会費を送る時に呼かけのメモを同封することもできます。早めにメモを作って送ってください。

●会員数は、12月1日現在445名です。

※11月号情報コーナー（P15）の菊池さんの電話番号が違っていました。訂正願います。正しくは、☎
※次の会費は1・2月合併号となり、発送は二月三日の予定。みなさんよいお年を。



☆当会について詳細を知りたい場合、封書にて、郵便番号・住所・氏名・電話番号を明記し切手四百円分（なるべく少額切手で）を送って下さい。宛先は表紙上段に記載。
☆入会希望の場合は、なるべく六ヶ月（三千元）以上まとめて郵便局の振替口座で払い込みを。口座番号は表紙上段に記載。なおTEしもお忘れなく。
☆事務局の電話受付は原則として月々金曜の1時から3時半です。御協力を。
☆会費の振り込みを忘れていた方は至急振り込みを/休会、退会も必ず連絡をください。